



ニュースレター

2021年1月(号外)

発行;小倉バプテスト教会 牧師;山本龍一郎

編集担当;嶋田涼美(責任者/1月号担当)

大庭博子・山本佐智子

Tel; 093-521-2862

Email;kokuracc@yahoo.co.jp

メッセージ

牧師;山本 龍一郎

「イスラエルの人々に伝えてこう言いなさい。あなたたちのうちのだれかが、家畜の献げ物を主にささげるときは、牛、または羊を献げ物としなさい。」(レビ記1:2)

イスラエルの民が神様に献げた焼き尽くす献げ物の中で最も大きな家畜は牛でした。日本では古くから牛は田畑を耕すために、運搬、脱穀等々で用いられた大事な家畜でしたが、今は私たちの食生活に必要な不可欠な食材となっています。神様はイスラエルの民が神の御前において聖くされるため、人間の罪の犠牲となる最高の献げ物を準備することを望まれたのです。

今日、私たちが神様に献げる最高の献げ物とは何でしょうか。私たちが神様から頂いている沢山の恵みの中から、よい献げ物をいつも準備することができますように。そして、それらを神様が受け取って下さるよう祈ります。

2021年 1月の「がらがらどん」は中止になりました。

(予定の開催日 1月23日)

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、緊急事態宣言が発出されました。この状況から、お休みさせていただきました。

今月の絵本

作:石井 桃子

絵:中谷千代子

出版社:福音館書店

(紙上の読書会は

2月号に掲載します)

いしんぼうのはなごさん



きせいの家にも牛がいそ

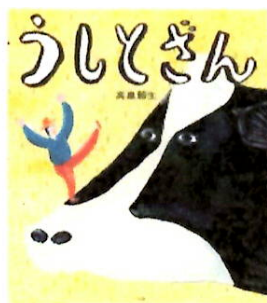
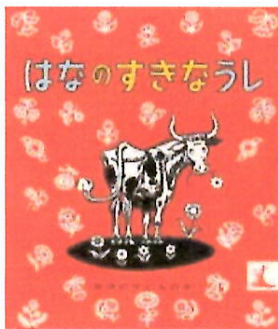


作:小森薫織 絵:中川洋典
エルくらぶ

牛は、人が食べるために屠畜される。でも、食べるだけじゃない。意外なものまで牛を材料に作られ、私たちの生活を支えている。どのように屠畜・解体され、どんなものに加工されるかを表した絵本。(書評より)

毎年一月は干支の絵本をテーマに、読書会をしています。2021年は丑年。

そこでこの号も、牛さんが登場します。賢い牛さん、わがままな牛さん、遊園地みたいな牛さん、ステーキや、ハンドバッグで、役たつ牛さん。いろいろお世話になります。今年もよろしくね!

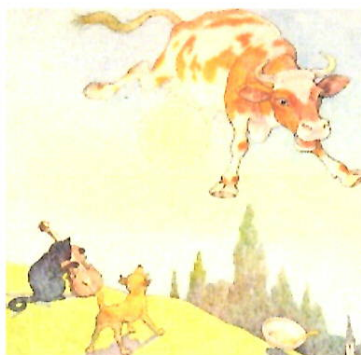


←高島那生作、小学館(朝日新聞書評)

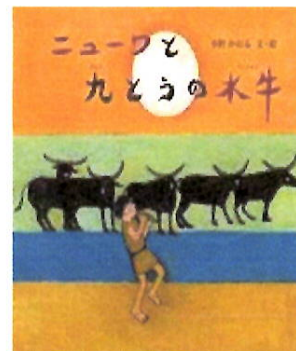
うしとごん?そうそう、素直に変換すればいいんです。なんにも考えないで、目の前の牛に登ってみましょう。どこから登ったっていいんです。目の前の毛をつかんで上へ上へ。縮こまった身体に、心地よい刺激。山頂の草原ならぬ牛の広い背中は、散策にもってこい。おなかすいたら、食事処でおいしいごはんをいただきます。じゅうぶん堪能したら帰りましょう。しっぽから下れば、運がつくかも。この一冊で最高のリフレッシュになること、まちがちなし。

(ファンタジー!をお楽しみください。山に登った気持ちになります。)

↑マンロー・リーフ & ロバート・ローソンにより、物語に込められた、「非戦の思想」白と黒だけで描かれた絵は、闘牛士や牛のユーモラスな表情がいきいきとしていて楽しい。スペインの街の様子。わが道を行く“ふえるじなんど”は、戦う事ではなく、平和で静かな生き方を選んだ。【福音館 子どもの本】



←えっさか ほういさ
ねこに ヴァイオリン
めうしがつきを とびこえた
こいぬはそれみて おおわらい
そこでおさらは
スプーンといっしょに
すたこらさ
イギリスの伝承童話
『マザー・グースの唄』より
谷川俊太郎 訳



水牛の世話をする少年
中国桂林の美しい伝説を
もとにつくられた絵本です
小野かおる(著・イラスト)
福音館書店